

天府の国・四川省へ (1)

寺西 俊英

5年9か月ぶりの四川の旅である。2017年10月19日・17時30分、ANAの成田発NH947便は機首を上げ雲の中に入って行った。

友人が「四川省にどうしても行ってみたい」と言うので私も四川省なら、ということで同行することにした。四川省には2012年1月に初めて行き今回が2度目であるが、天候については地形の関係上と事前に聞いていた通り、毎日ぐずついて時折小雨が降った。この旅の一週間も毎日曇りか霧雨にたたられた。晴れ男と周囲に自慢していたが、四川省に関する限り返上しなければならない。しかし全体としては四川省は好きであるし良い印象しかない。九寨溝、四姑娘山、峨眉山など他省に無い自然の美しさ・豊かさ、成都市の整然とした街並——特に私の好きな日本の銀座に相当すると思う春熙路周辺また都江堰、武侯祠、杜甫草堂そして李清照など歴史上の史跡・人物も多く、「天府の国」の名にふさわしい地であった。ただ火鍋には閉口したが……。

成都市内の地下鉄は2010年に1号線が初めて開通したばかりであったが、現在は4～5路線が運行していて驚いた。前回は都江堰と市中心部の名所に行ったので、今回はそれ以外の場所を友人に提案しておいた。特に行きたかったのは、1996年に世界遺産に登録され、中国四大仏教名

山の一つである峨眉山である。合わせて樂山大仏も見たかった。そのほかにメジャーではないが、「酒都」の別称を持つ宜賓市にある李庄古鎮や竹海もお勧めの観光地である。今回の旅には、故郷が宜賓市で大連在住の友人も駆けつけ案内してくれた。中国人は友達をととても大事にしてくれる。

四川は天府の国ではあるが、自然災害が多いと

ころでもある。上記の観光地の中で、今回は行くことが出来ず、また当分の間行けないと思うが、九寨溝の地震の被害

が心配である。ご承知の通り、2017年8月のマグニチュード7の大地震で多くの死傷者を出し、湖や滝などの素晴らしい景観がかなりのダメージを受けた。2008年に10万人近い死者を出した四川大地震が記憶に新しいが、そこからあまり遠くない場所だけにその余震では

ないかと私には思えるのであるが……。都江堰地方もその昔河川の洪水に悩まされてきた。2千年あまり前に李冰親子が難工事であったが岷江という暴れ川を長江と成都方面に分ける工事をした結果、洪水に悩まされることが無くなったのである。人々は心から感謝し親子を王と称した。二王廟に祀られている。またいずれ書いていくが、樂山大仏はこの岷江の下流にあり、大仏は大渡河との合流地点に造られていて、やはり洪水と深いか



かわりがあったのだ。

話を戻して行きの機内について少し書いておきたい。2012年に行った時は、この直行便の開設があまり知られていなかったからか、往復とも30名にも満たない客でCAも手持ち無沙汰にしていたのが思い起こされる。大赤字の為にこの路線が無くならねばいいかと本当に心配した。しかし今回は、行きはほぼ満席、帰りも7割程度の乗客でホッとした。企業努力もあったのであろう。

飛び立って30分あまり経った頃食事のアナウンスがあった。CAが2種類のメニューを示すので、私は海鮮丼を選んだ。丼といってもどんぶりではなく、四角いケースにご飯がありその上にいろいろな海の幸が乗っていてとても美味しい。「お酒もご用意してあります」の声に下戸の私だが、つい「コップに半分下さい」と言ってしまった。CAの話では、9月から国際便で宮城県産の「一ノ蔵」をサービスに加えたとのこと。口当たりがよく美味しくいただいた。ちなみに「一ノ蔵」は4つの酒造会社が一つになり、1973年に誕生した。米どころ宮城県産の酒米で醸造しているそうだ。ともかく機内食は日本の飛行機が世界一だとお世辞抜きで思う。

午後5時半ころ成田空港を飛び立った947便は、前方のスクリーンを見ると東シナ海を横切った後、長江に絡みつくようにして順調に飛行を続け、現地時間の午後10時前に着陸した。〈以下中国時間で表示〉定刻より30分早く着いたが、所要時間はおよそ5時間半であった。少し不満だったのは、機長が外国人で英語しか話さなかったため言っていることがほとんどわからなかったこと、そして仕方ないことではあるが、機内のほとんどは中国人で話声が大きく眠りを妨げられたことである。

税関を無事通過して出口に向かうと、大連から一足先に着いた友人が手を振っていた。何度も書くが異国の地で友人と再会するのは誠に嬉しいこ

とである。^{きゅうかつ}久闊を叙し、^{じょ}握手を交わしてタクシーに乗り込んだ。20分くらい経って23時頃ホテルに着いた。ホテルの名は「成都城市理想酒店」である。市の中心にある天府広場から比較的に近いところにある。住所は、成都市過街楼街17号である。このホテルは23日から2泊連泊の予約をしてあるが、2度と泊まりたくないホテルとなった。詳しくは、本シリーズの23日のところで触れたい。

今夜はシャワーを浴びて早めに寝ることにした。明日は、峨眉山に登りそのあと樂山大仏のある樂山まで行くので、朝早くホテルを出発しなければならないからだ。峨眉山に登る日を明日20日にしたのは、仏教の信仰心が篤い友人が希望したからである。彼によると10月20日は、旧暦で9月1日に当たるそうである。中国では毎月1日と15日は近くの寺院にお参りに行く人が多いそうだ。夜遅く着いたので朝は本当はゆっくりしたかったが、彼の意向を尊重した。中国はやはり旧暦が大きく影響している。

ここで、峨眉山の紹介をして、本稿を終わりたい。成都の南西約160kmの所に峨眉山は有る。複数の峰を総称して「峨眉山」と呼んでいるが、最高峰の万仏頂は3099メートルである。前述の通り1996年に樂山大仏と合わせて、世界遺産(文化と自然の複合遺産)に登録された。複合遺産となったのは、山々の美しさ、金頂で見られるご来光等と共に山中にある、数多の歴史的宗教建造物のためである。「金頂」とは、3077メートルの高さのもう一つの頂で、太陽の下で華蔵寺が金色に輝いて見えることからその名が付いた。峨眉山は、前述のように中国四大仏教聖地の一つで普賢菩薩の聖地として人々に崇められている。他の三つは、山西省の五台山(文殊菩薩)、浙江省の普陀山(観音菩薩)、安徽省の九華山(地藏菩薩)である。私は、これまで普陀山には、2014年に行ったが私も仏教徒の端くれなので、後の二つをここ数年内に行ってみようと思っている。(続く)